

社内ファクシミリ網の構築

〈高速デジタルファクシミリの導入〉

制御通信部 通信技術課

当社のファクシミリ網は、給電用、防災用と二つのシステムで構成されている。防災用は一般業務にも利用されている。しかし、システムの老朽化、利用者ニーズの多様化等による問題点が生じてきている。このため、高速デジタルファクシミリを採用し、本店および5支店・社にデジタル交換機を設置した新ファクシミリの構築を目的として、63年5月完工（第1期は62年9月完工）を目指して、現在、工事を進めている。

1 新ファクシミリ網の概要

(1) 構成

新ファクシミリ網は、本店を中心にして各支店社をスター状に構成し、各々のデジタル中継線は光伝送路を使用している。（第1図）

一斉同報や各種サービス機能の向上を図るために蓄積装置を設置する。

中継線、蓄積装置、高速デジタルファクシミリに対応するため、デジタル交換機を設置し、蓄積装置に対しては代表番号扱いとする。

端末は、62年度および63年度の2期に分けて設置を計画している。

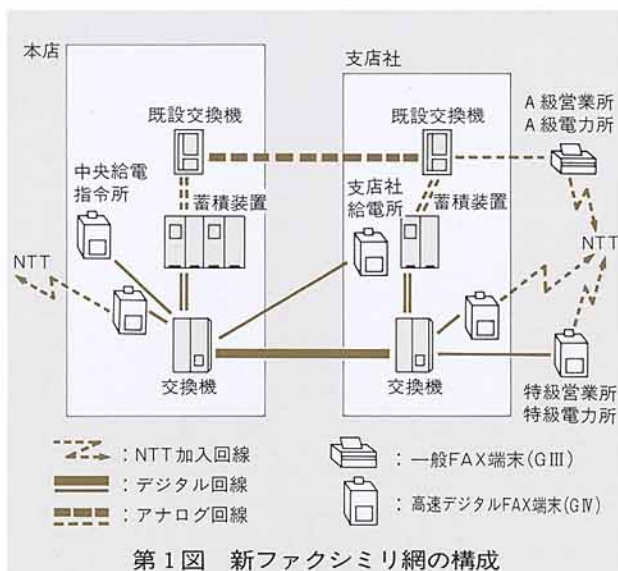
(2) システムの仕様

システムの仕様を次に示す。

第2表 システムの仕様

蓄積装置	交換方式	Stored Program方式Message交換
	処理能力	100回線(9.6kb/s換算)
	蓄積容量	10,000枚(A4判、40kBにて)
	収容端末	GIII FAX端末、GIV FAX端末
	サービス機能	防災一斉指令、一般同報 代行通信(GIII-GIV変換) 電子掲示板(気象レーク情報等) メールボックス、親展通信
GIV FAX端末	適用回線	デジタル回線(X, 21)
	送信原稿	最大A3判
	記録	B4/A4判、普通紙記録
	伝送速度	48kb/s
デジタル交換機	回線容量	500回線(本店)、200回線(支店)
	中継線	2Mb/s インタフェース(30ch)
	共通線信号	1ch中継線に割当、4.8kb/s

X, 21：公衆データ網で、データ端末装置とデータ回線終端装置間の汎用インタフェース



第1表 設置予定端末数 (63年度末:台)

機種	本店	支店社	営業所	電力所	その他	合計
G III	—	10	30	15	100	160
G IV	10	30	30	15	20	105

G III：アナログ回線用FAXで、A4判を1分で送信
G IV：デジタル回線用FAXで、A4判を10秒以内で送信

2 新ファクシミリ網の特徴

本システムの特徴を以下に示す。

社内網 統一化	給電用ファクシミリ	の統合
	防災用ファクシミリ	
	社外用ファクシミリ	
G IV FAX の採用	高速化(現状の約5倍)	の統合
	高画質化(線密度：現状の約2倍)	
標準機種 の採用	購入コストの低減化	の統合
	社外通信を可能にする	

3 あとがき

本システムの完成により、高速・高画質のファクシミリ伝送が可能となるほか、蓄積装置の機能が強化されるために電子掲示板やメールボックス等のサービス機能も充実する。このような機能をいかに生かすかは、利用者の使い方次第であり上手な利用をお願いしたい。